

東北労災病院移転の協議終了にかかる市長メッセージ

富谷・黒川地域の救急・急性期を担う総合病院は、市民の生命・健康を守るためにぜひとも必要であり、総合病院の立地は、総合計画策定時の住民アンケートで毎回上位に入るなど、市民の皆様が切望しております。

本市としましては、県の4病院移転・再編の動きに合わせ、いち早く病院誘致に名乗りを上げ、県と労働者健康安全機構の協議に真摯に対応するとともに、基本合意の進捗状況を注視してまいりました。

本日、東北労災病院の移転に係る知事と労働者健康安全機構理事長のトップ会談があり、私も出席しましたが、理事長から富谷移転を断念し、基本合意に向けた協議を終了したい旨の申入れがありました。

その理由として、機構全体の経営状況が厳しく、移転に必要な整備資金確保が困難ということであり、そういった状況では、本市として如何ともしがたく、新病院の立地決定を心待ちにしてきた市民の皆様には大変申し訳ありませんが、申入れを受け入れざるを得ない状況と判断いたしました。

県と機構は、本日をもって協議を終了することで合意しましたが、この事態を受けて会談後に、知事へ今後の対応を相談し、本市としては救急・急性期を担う総合病院は不可欠であり、公募実施も視野に、早急に対応策を検討したい旨をお伝えするとともに、県からの財政支援を含む特段のご支援をお願いしました。

今後の対応について、本日、市の重要政策を審議する「政策企画会議」を開催し、本市に病院開設を希望する医療機関を公募することを決定するとともに、議員全員協議会において、公募の実施について説明を行い、ご理解をいただいたところです。

なお、公募については、診療科等の医療機能や支援策など、公募条件を早急に確定し、できるだけ早い時期に開始したいと考えており、準備を急ぎ進めてまいります。

引き続き、市民の生命と健康を守るため、救急・急性期を担う総合病院立地の実現に向けて、鋭意取り組んでまいります。

令和7年5月9日

富谷市長 若生 裕俊